附属校のNEWS

立命館中学校・高等学校

2回目の先導的改革型Super Science High School（SSH）指定を獲得（2023~2025）

立命館高校は、2002年度から5期連続して21年間のSSH指定を受け、今年度が第5期の最終年度でしたが、次年度からも新たな指定を獲得しました。第5期以降は、「先導的改革型」と呼ばれ、全国のSSH事業を先導する役割を担っています。

2002年度、文部科学省のSSH事業が開始された初年度から指定を受け、新しい科学教育の研究開発に取り組んできました。当初から、高大連携のもとでの探究型学力伸長を重視した取組を行い、現在の課題研究の取組へとつながっています。第3期からは、「国際科学教育」という独自の概念を掲げ、グローバル基準での高度理系人材の育成とその方法論の確立に取り組んでいます。2回目の先導的改革型は、2023～2025年度の3年間で、「国際科学教育の普及と国際舞台で活躍する科学者・技術者に必要な非認知能力の育成」を研究開発課題として掲げ、我が国の科学教育の更なる進展に向けて尽力します。

立命館宇治中学校・高等学校

4年ぶりに夏の甲子園出場

立命館宇治高校硬式野球部が激戦の京都府大会を勝ち抜き、4年ぶりに夏の甲子園に出場しました。後に大会ベスト4進出を果たす鹿児島代表神村学園との対戦でしたが、相手方の攻撃力が素晴らしく立命館宇治高校は防戦一方の展開となり、随所に良いプレーは見られたものの、2対10で敗戦する悔しい結果となりました。立命館宇治高校硬式野球部の皆さんから、応援いただいた方へのメッセージは以下の通りです。

「4年ぶり4度目の夏の甲子園は悔しい結果に終わりましたが、相手の力が上回っていたと謙虚に認め、この悔しさを糧に、頑張る決意です。この間、多くの皆様から激励のお言葉やご支援を頂き、感謝にたえません。歴史を塗り替える「甲子園2勝」は次回の宿題となりました。今後ともご声援宜しくお願いいたします。」

立命館慶祥中学校・高等学校

高校2年生船倉光平さん スペースロボットコンテスト19全国優勝・ベストビデオプレゼンテーション賞受賞

高校2年生 自然科学部の船倉光平さんがスペースロボットコンテスト19に於いて、びわ湖環境プロジェクトに関わる発表で見事全国優勝を果たしました。船倉さんは、ベストビデオプレゼンテーション賞も受賞されています。スペースロボットコンテストは、2004年から毎年開催されている「宇宙探査・開発ロボット」をモチーフにした、リアルSTEAMコンテストです。JAXAなど専門家が目指すゴールをジュニア時代から共有することで、10年以内に最前線で活躍できる人材の育成を目指すものです。

立命館守山中学校・高等学校

中学アメフト部 第10回東西交流戦マリンボウルに勝利！初の春季日本一に輝く

6月25日（日）関西学院大学第3フィールドにおいて、第10回東西交流戦マリンボウルが行われました。マリンボウルとは、関東と関西のそれぞれの大会で勝ち上がったチームが対戦し、春の日本一を決めるゲームです。本校チームは初めての出場でしたが、対戦相手のオービックシーガルズジュニアは昨年もこのボウルゲームまで勝ち進んでおり、2年連続の出場でした。試合は立ち上がりからディフェンスがしっかり守り、オフェンスに攻撃権を回し良い流れができました。オフェンスは最初のシリーズでテンポ良くパスが決まり先制点を得ることができ、後半に入っても良いリズムは変わらず3本のタッチダウンを獲得し、33–7で初優勝を飾りました。

立命館小学校

小学校の教育コンテンツを一般開放 大人の本物体験講座開講

立命館小学校では、立命館小学校の教育内容のリソースと関連したものを「講話」や「ワークショップ」等の形で行う大人の本物体験講座を開講しています。本年度は、算数、狂言、漢字、草木染、茶道の5つの講座を開講します。例えば「狂言」では、大蔵流狂言師・茂山千三郎氏から、「『和儀』美しく健康に生きるすべ」のタイトルでお話しいただくなど、本物かつバラエティ豊かな内容となっています。詳細については、こちらのQRコードからご確認ください。

学校法人立命館 総務部 寄付事務局
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地
TEL: 075-813-8110　FAX: 075-813-8119　E-mail: rgiving@st.ritsumei.ac.jp

RITSUMEIKAN

ご寄付のお礼とご報告

DONORS NEWSLETTER 2023

立命館

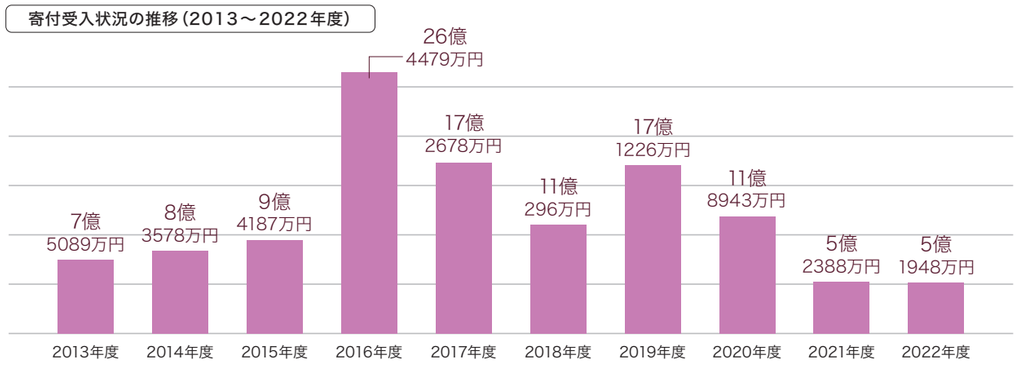
来たぜ新次元大学。
https://www.ritsumei.ac.jp/features/oic_pr/

2022年度実績報告

皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。2022年度は総額約5.2億円の温かいご支援を頂戴しました。

［寄付金額の推移］

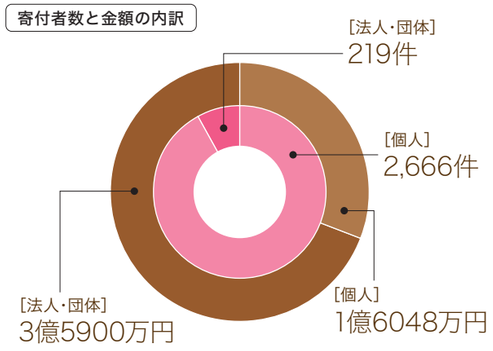
寄付受入状況の推移（2013～2022年度）



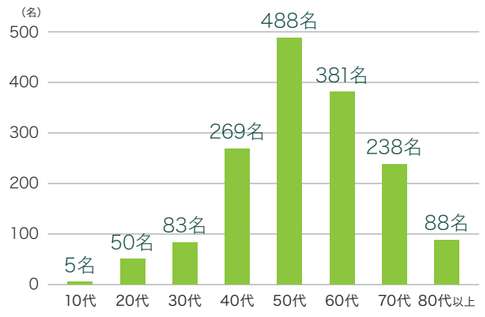
※2016年度は新図書館建設にあたり高額の寄付をいただきました。

［2022年度 寄付受入状況］

寄付者数と金額の内訳

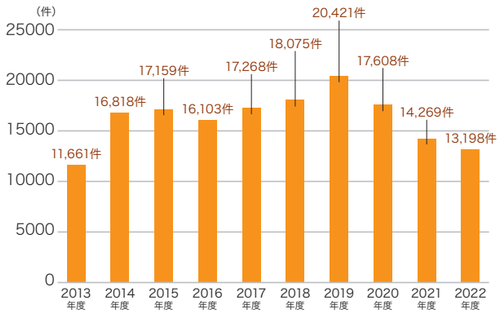


寄付者の年齢分布（立命館大学）



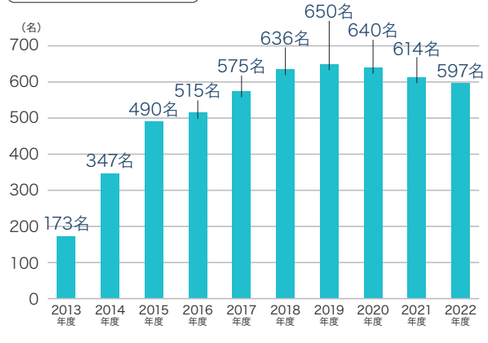
個人寄付の広がり

※個人寄付の延べ件数



継続的な寄付の広がり

※クレジットカード、口座振替による継続寄付



もっと挑戦が動き出すキャンパスへ

2024年4月大阪いばらきキャンパス新展開

2024年4月、映像学部・研究科、情報理工学部・研究科が大阪いばらきキャンパス（OIC）へ移転します。これにより、現在は4学部・5研究科で学生数7,308人のOICが、2024年4月以降は6学部・7研究科、学生数約10,500人の規模となります。

今回の2学部・2研究科移転を契機とするOIC新展開では、デジタル・アートの新領域が加わったOICを誰もが挑戦できる場「TRY FIELD」と位置づけ、「デジタルとクリエイティブの融合により進化するTRY FIELD」「タブーなき挑戦を通じてスタートアップを生み出すTRY FIELD」「異次元のつながりが新たな価値を創出するTRY FIELD」を3つの柱とした、これからの時代に求められる新たな学びを次々と創造していきます。

ご寄付を活用した学生の取り組みご紹介

「立命館大学校友会未来人財育成奨励金」（団体支援）

奨励金採択テーマ	個人店を日本文化として後世に紡ぐまちづくりの開発

経営学部4回生
超KATTEDON実行委員会 代表
山本みらの さん

私たちは、歴史を大事にするまちづくりのベースとも言える個人経営店を、30年後の子どもたちに残すべく活動を行っています。個人店が連なる商店街や提灯、暖簾のある景色、そんな街並みの大事な要素の一つである個人店を残していきたいなと考えています。コロナ等の影響を受けやすい個人経営店が数を減らしている現状から来る危機感も、私たちの背中を押しています。昨年は、その手段の一つとして、私の地元である釧路と茨木を繋ぐまちづくりイベント「超KATTEDON」を主催、今年は「未来人財育成奨励金」のサポートを受けて、釧路地域の皆さんが主催するまちづくりイベント「くしろがわオープンテラス」の運営に参画しました。地域の皆さんとの協業を通じて様々な学びを得ることができましたし、そして何より私たちの活動に不可欠な沢山の素敵な出会いがありました。

今は釧路を活動の中心に据えていますが、将来的には日本全国にこの取り組みを広げていきたいと考えています。一つの地域だけが復活しても、国としての大きな視点では、根本的な課題解決にはなりませんので、そのノウハウをどう全国に広げていけるのか、最終的には「日本の未来を紡ぐ」意気込みで取り組んでいます。

私たちは、本奨励金を通じて支援いただいた皆様をはじめ、多くの皆様のサポートにより充実した活動が出来ている事への感謝の気持ちを忘れず、これからも「まちづくり」の活動に取り組んでいきたいと思いますので、引き続き応援よろしくお願いいたします。

鶴名釧路市長と

くしろがわオープンテラスの風景

学生の活躍

「世界陸上」出場など女子陸上競技部選手が躍動

8月19日（土）～27日（日）にかけて、ハンガリー・ブダペストで行われた「第19回世界陸上競技選手権大会」日本代表として、女子陸上競技部の山本亜美選手（スポーツ健康科学部3回生）と柳井綾音選手（食マネジメント学部2回生）が出場しました。

山本選手は、6月に行われた「第107回日本陸上競技選手権大会」の女子400mハードルで日本歴代5位・学生歴代3位の好記録で大会3連覇を成し遂げた日本のトップハードラー、「第25回アジア陸上競技選手権大会（タイ）」、「杭州2022アジア競技大会（中国）」に続く日本代表選出となります。

柳井選手は、今年3月に行われた「第47回全日本競歩能美大会」女子20㎞競歩にて、日本歴代9位・学生歴代2位の記録で優勝を果たした期待のアスリート、6月の「第4回順天堂大学競技会」では日本学生記録を樹立するなど、シーズンを通して素晴らしい成績を残しています。

女子陸上競技部からは、村松灯選手（経済学部3回生）が前述2選手と共にワールドユニバーシティゲームズ日本代表に選出されるなど、顕著な成績を残す選手が次々と誕生しています。

［写真提供 月刊陸上競技］

山本亜美選手

柳井綾音選手

村松灯選手

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、
新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度より実施しています。

実績 350,110冊（8,729,989円） 7,515名　2013年4月～2023年8月

［活用事例］

2013年10月	立命館小学校	1～6年生の必読書（43冊）
2014年8月	立命館大学	衣笠・BKC図書館　英語多読本・日本語学習教材（307冊）
2015年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（34冊）
2017年3月	立命館大学	OIC図書館　学生アンケートを募り選定した図書（470冊）
2018年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（31冊）
2019年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（41冊）
2020年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（16冊）
2021年2月	立命館大学	衣笠・BKC・OIC図書館　文学賞受賞小説・実用書等（990冊）
2021年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（4冊）
2023年1月	立命館大学	衣笠・BKC・OIC図書館　文学賞受賞小説・実用書等（604冊）
2023年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（3冊）

なお、購入された本には、**「古本募金により集まった寄付で購入した」ことが分かるシール**を貼付。

手に取った学生・生徒・児童たちに、ご支援いただいた方々の想いが少しでも届いてほしいという願いを込めています。

未来を切り拓く研究者

月・惑星における生存圏拡大、居住・生活圏構築開発への扉を開く「立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）」を設置

立命館大学は、月・惑星における人類の生存圏拡大と、将来的な居住・生活圏構築に先駆けた探査拠点となる宇宙開発・インフラ構築に取り組む日本初の研究組織「立命館大学宇宙地球探査研究センター（Earth and Space Exploration Center [ESEC]）」を7月1日に設置しました。総合科学技術研究機構教授の佐伯和人センター長以下、学内26名の探査や拠点開発に関わる多様な領域を専門とする研究者が、「人類の生存圏の維持と拡大に貢献する」という共通するビジョンのもと、センターに集いました。

8月8日には、東京・お台場の日本科学未来館で初の主催イベントを開催し、立命館からは佐伯和人センター長、小林泰三教授、湊宣明教授が登壇、また宇宙ベンチャーの株式会社ispace 袴田武史氏も参加し、産業界、アカデミア、メディア関係者らを中心に多くの参加者が集いました。イベントのテーマは「Beyond Gravity：いまこそ『月面開発』に投資せよ。宇宙研究×宇宙ビジネス最前線」。ispace袴田氏とともに、宇宙研究や宇宙ビジネスの可能性、宇宙開発の課題や展望、産学連携の多様なコラボレーションの未来について熱く議論を交わしました。

佐伯和人センター長のコメント

私たちが注力するのは、宇宙開発を3つのフェーズに分けた際の『フェーズ2』です。『フェーズ1』はこれまで行われてきた『発見型』の宇宙探査、最近盛り上がっている、宇宙での都市構築を目指すのが『フェーズ3』の世界ですが、宇宙資源の開発がはじまり、宇宙の国際勢力地図がつくられつつある今、まさに必要な、人類の生存圏と探査拠点を構築し、宇宙開発の現場を切り拓く『フェーズ2』にフォーカスを当てた研究組織は日本初となります。未知の荒ぶる自然環境に拠点を構築しつつ探査し、持続的な生存圏を構築する精鋭集団となり、人類の明るい未来を拓いていく決意の私たちの取り組みに、どうぞご注目ください。